

「仲田光成・森田子龍展」 書美の巨匠・二人の先駆者 について

平成20年7月に兵庫県立円山川公苑で開催した「仲田光成・森田子龍展」を東京において開催する。

これにより、豊岡市が生んだ日本を代表する伝統かな書の巨匠・仲田光成と前衛書の巨匠・森田子龍の二大書家の功績を全国に発信するとともに、当市所蔵の貴重な美術コレクションを一般公開する。

展覧会開催に併せて、本市固有の多様な地域資源やコウノトリの野生復帰を核としたまちづくりについても広くPRする。

1. 会期・開館時間

7月28日(火)～8月2日(日)

開館時間：午前10時～午後6時

最終日は午後3時30分まで

2. 会場

東京セントラル美術館(東京都中央区銀座2-7-18 銀座貿易ビル5F)

3. 観覧料 無料

4. 主催 あきつ会、豊岡市、豊岡市教育委員会

5. 内容

(1) 展示作品

豊岡市および兵庫県立円山川公苑に寄贈された二人の作品の中から代表作品41点を展示。

豊岡市所蔵品分

仲田光成(平成14年度寄贈) 250点中から 23点出品

森田子龍(平成11年度寄贈) 59点中から 16点出品

円山川公苑所蔵品分

森田子龍(平成14年度寄贈) 2点中から 2点出品

(2) オープニングセレモニー

7月28日(火)午前9時45分～テープカット

(3) 作品解説会

日時 7月28日(火)午前11時～

8月2日(日)午後1時～

場所 東京セントラル美術館内

講師 美術評論家・本展監修者 田宮 文平 さん

(4) 豊岡市のPR

会期中、展覧会場入口付近豊岡市PRコーナーを設置

面積 約10㎡

内容

- ・コウノトリ野生復帰パネル展示(コウノトリは実物大)
- ・「35年前みんなで暮らしていた」ポスター展示
- ・市の観光およびコウノトリ関連のパンフレットの配布

6. 首都圏における事業周知

報道機関による周知

東京都人会・但馬会、豊岡・出石高等学校OB会東京支部等や書道ジャーナリズムなどを通して周知

文部科学省、文化庁の協力による周知

7. その他

同美術館において、「仲田光成生誕110周年記念あきつ会役員展」(あきつ会主催)を同時開催

< 参 考 >

1. 田宮文平

略歴

1937年、東京都生まれ。書評論の第一人者。千葉県美術館資料審査委員、大東文化大学非常勤講師。

主な著書

『「現代の書」の検証』(芸術新聞社)、『昭和二桁世代/現代書家の素顔』(全日本美術新聞社)ほか。仲田光成・森田子龍を『「現代の書」の検証2』において紹介。

2. 仲田光成

略歴

1899年豊岡市竹野町に生まれる。近代仮名書道の第一人者である尾上柴舟おのえの高弟であり、若くして古典を究め、鋭い線條による空間構成で独自の大字仮名を確立した。また、平安古筆を基礎に、現在の美意識で表現した典雅な細字作品においても、「仲田流」と称され一時代を画した。2003年7月、満104歳で逝去。

3. 森田子龍

略歴

1912年豊岡市に生まれる。1932年頃より制作を始め、1937年、上田桑鳩そうきゆうの知遇を得て上京。書の啓発普及、革新を目指し、「墨美」、「墨人」といった書雑誌を発刊、さらに同士を募り「墨人会」を結成、書壇に新しい風を吹き込んだ。表面的な字形に捕らわれない生命感にとんだ<墨象>という新しい世界を切り開いたが、その根底には、書の根源的な伝統を求めて深く古典を学び、王羲之あうぎし、大燈国師だいてうらから受け継いだ高い精神力があったと言える。1998年12月、87歳で逝去。

4 . 前衛書とは

伝統的な書概念を離れて、墨色・筆致・余白などによる純粋な造形美を追求する書道。第二次大戦後に興り、昭和 30 年代以降に盛んになった。墨象（ぼくしょう）とも言う。

〔問合せ〕文化振興課文化振興係 23-1160